

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v.1.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	藤沢西高校	階数	地上4F
建設地	藤沢市大庭字三つ又3550番2他	構造	RC造
用途地域	第1種低層住居専用地域	平均居住人員	900人
気候区分		年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 0.0	評価の実施日	2012年2月10日
敷地面積	41,416 m ²	作成者	国設計
建築面積	3,239 m ²	確認日	2012年2月10日
延床面積	9,344 m ²	確認者	国設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 83%

上記+ 以外のオンサイト手法: 83%

上記+ オフサイト手法: 83%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 3

LR2 資源・マテリアル: 3

LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

視環境 音環境 温熱環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

建物の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項		その他
総合 新校舎と既存校舎との連携を向上させるため、正門から東西方向に伸びる「大通り」・「エントランスコート」を整備し、新たな「核」を作り出している。新校舎となる普通教室棟は、全ての教室を南面させ、学年毎のまとまりをつくる。特別教室棟は、中庭を囲む口の字構成とし、職員室・事務室・図書室・視聴覚教室を校舎全体の中央に積層することで、動線の合理化と校舎構成の明確化を図っている。		0
Q1 室内環境 普通教室の外部窓にはすべてライトシェルフを設置。日射抑制と天井反射効果から教室内が均質な明るさと、壁・天井に吸音性の高い仕上げ材を採用することで授業の聞き取りやすい音環境にも配慮した。	Q2 サービス性能 階高を4mとし、教室は天井高3.0m、廊下は2.7m。設備スペースは点検のしやすい廊下に面して配置し、かつ余裕のある広さを確保。また、設備機器は、維持管理のしやすいとエコ材料に配慮したものを採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 新校舎棟は、北側敷地境界より離して配置し、階数も3階建てと低層構成。既存樹木は可能な限り残し、今回工事で現駐車場となっているスペースと、駐輪場に沿った大通りに、新たな植栽を行い緑化整備を行っている。
LR1 エネルギー 新校舎棟のほぼ全体を空調するため、外周部の断熱性向上を図る。空調は、教室を全熱交換機+FCU方式。管理諸室は空冷ヒューボン+全熱交換機方式と部屋の使用形態に応じた空調方式を選択。電気は高効率照明器具の採用と中央管理方式による省エネ化を図っている。	LR2 資源・マテリアル 再生砕石、木チップによるパーティクルボード、集成材、エコケーブルの採用などリサイクル材の活用を行っている。また、冷媒にはODP=0を採用し、フロン・ハロンの回避している。	LR3 敷地外環境 新校舎棟は周辺への風通しを阻害しないよう敷地境界から離して計画している。日影も規制値の2時間・3時間ラインが敷地内から外に出ない計画としている。また、屋上には、太陽光発電パネルの将来取り付け可能なコンクリート基礎を今回工事でも設置している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L:** Load (建築物の環境負荷), **LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), **BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい